

船橋地区防災計画

[令和7年修正]

船橋地区

【船橋地区防災計画作成団体】

船橋会	船橋小学校
船橋葭根会	希望丘小学校
フレール西経堂自治会	千歳台小学校
千歳台廻澤町会	船橋希望中学校
希望ヶ丘団地自治会	千歳丘高等学校
船橋4丁目住宅自治会	恵泉女学園中学・高等学校
芦花公園スカイハイツ自治会	大東学園高等学校
日赤奉仕団船橋分団	砧地域社会福祉協議会
民生委員・児童委員協議会	船橋あんしんすこやかセンター
成城消防署	東京テラス防災自治会
成城消防団第三分団	希望丘青少年交流センター(アップス)
千歳船橋商店街振興組合	千歳温水プール管理事務所

目 次

1 船橋地区の特性	船橋-1(-792-)
(1)自然特性	船橋-1(-792-)
(2)社会特性	船橋-2(-793-)
(3)地域危険度	船橋-4(-795-)
(4)被害想定	船橋-5(-796-)
(5)防災資源一覧	船橋-8(-799-)
(6)防災資源マップ	船橋-9(-800-)
(7)区民アンケート	船橋-10(-801-)
 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～	船橋-19(-810-)
 3 船橋地区の課題と取り組み	船橋-27(-818-)
(1)避難行動要支援者の安否確認	船橋-27(-818-)
(2)地域連携	船橋-28(-819-)
(3)初期消火	船橋-31(-822-)
(4)情報共有	船橋-32(-823-)
(5)在宅避難	船橋-34(-825-)

1. 船橋地区の特性

令和6年度 世田谷区危機管理部災害対策課

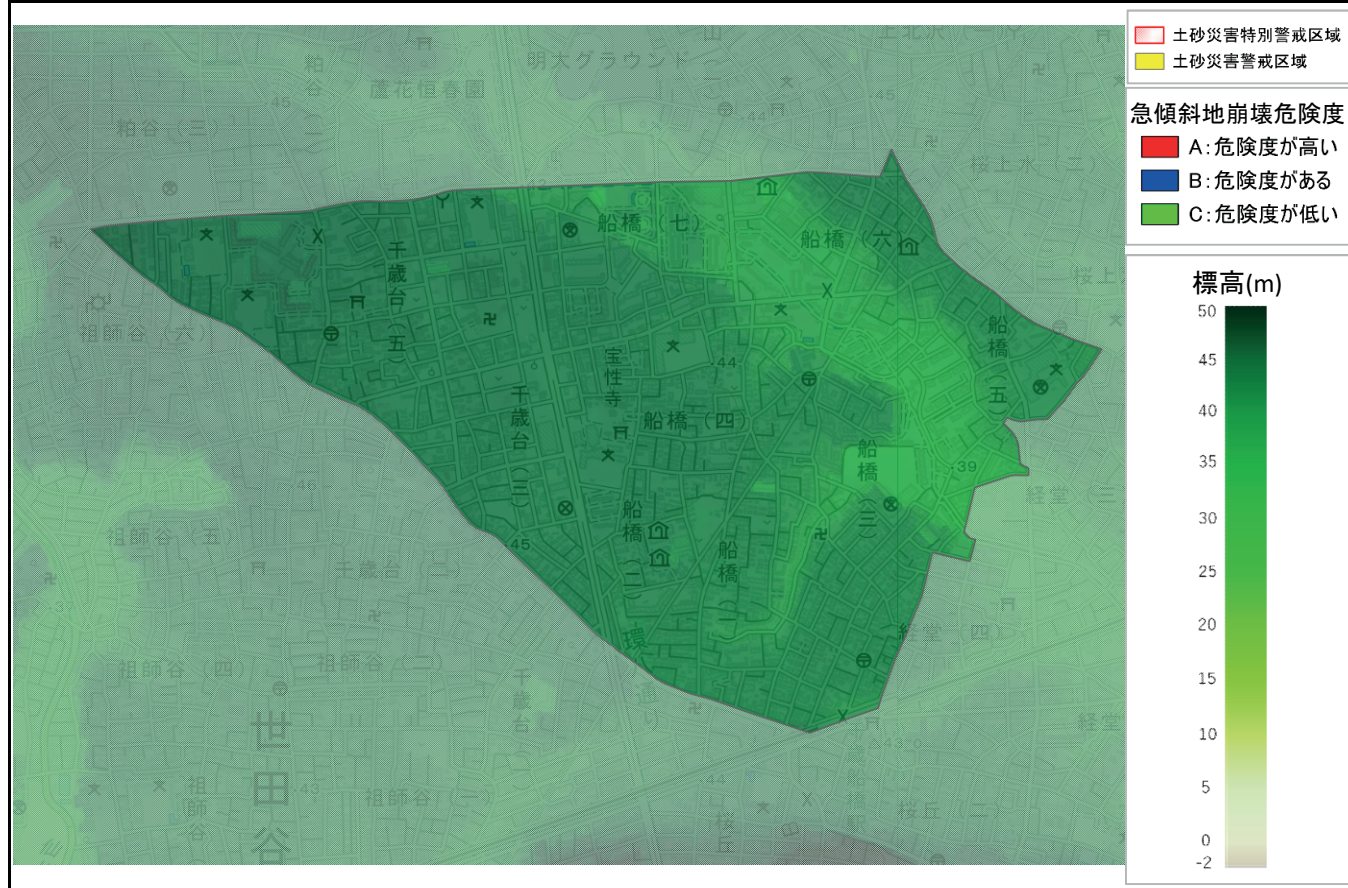
(1)自然特性

面積	1.87 Km ²	最高標高	47.6 m	最低標高	37.2 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



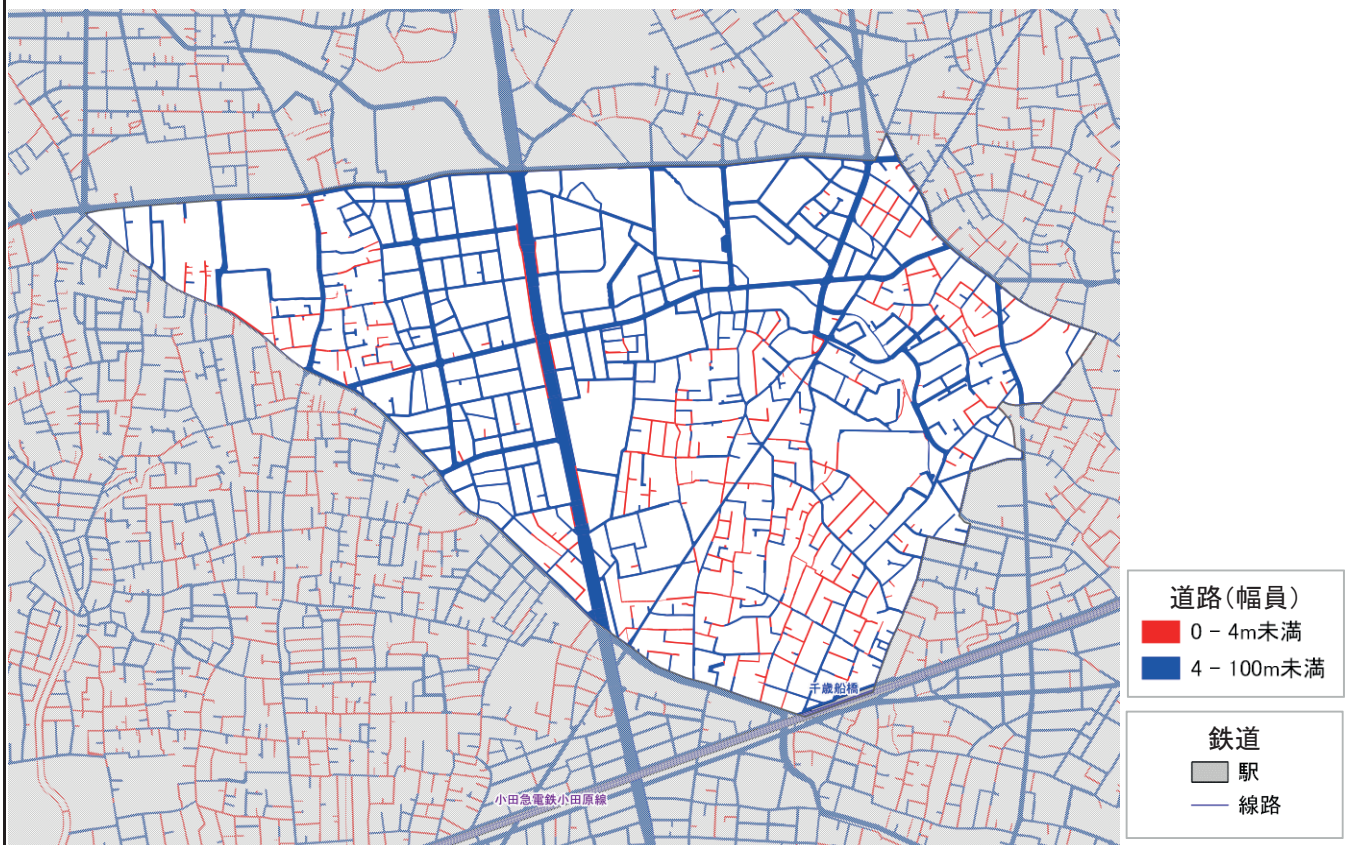
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

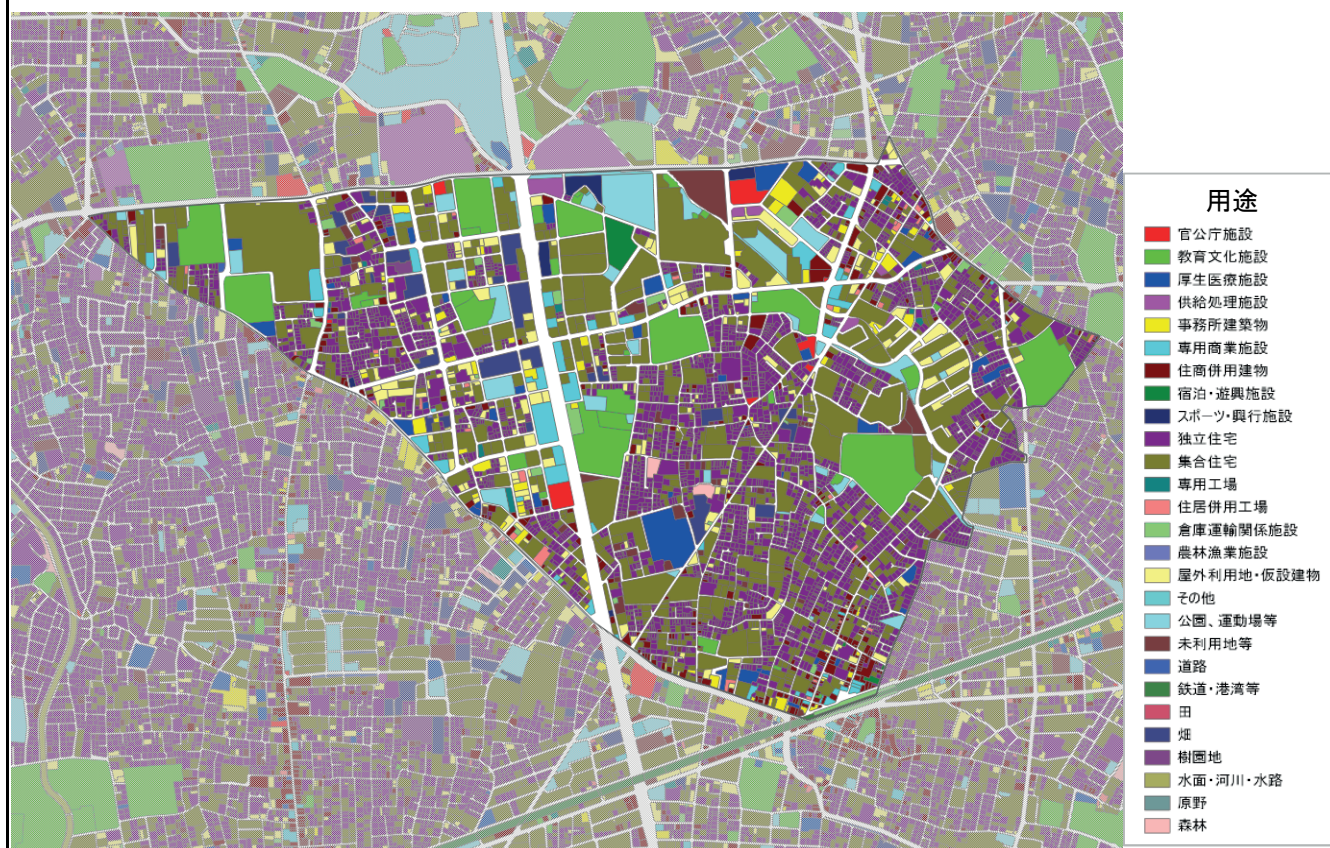
人口	39,427	人	細街路率	24.6	%
世帯数	19,013	世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	61.4	棟/Km ²
1世帯あたり	2.07	人	耐火率(建築面積ベース)	68.2	%
若年層数(15才未満)	5,557	人	土地利用(宅地)	70.1	%
若年層率(15才未満)	14.1	%	土地利用(宅地以外)	29.9	%
高齢者数(65才以上)	7,732	人	鉄道駅	小田急小田原線千歳船橋駅	
高齢者率(65才以上)	19.6	%			
昼間の人口	31,773	人	産業	商業	66.9 %
夜間の人口	40,015	人		工業	11.0 %
昼夜間人口比	0.79	-		農業	22.1 %
町会・自治会数	7	-			

道路・公共交通機関



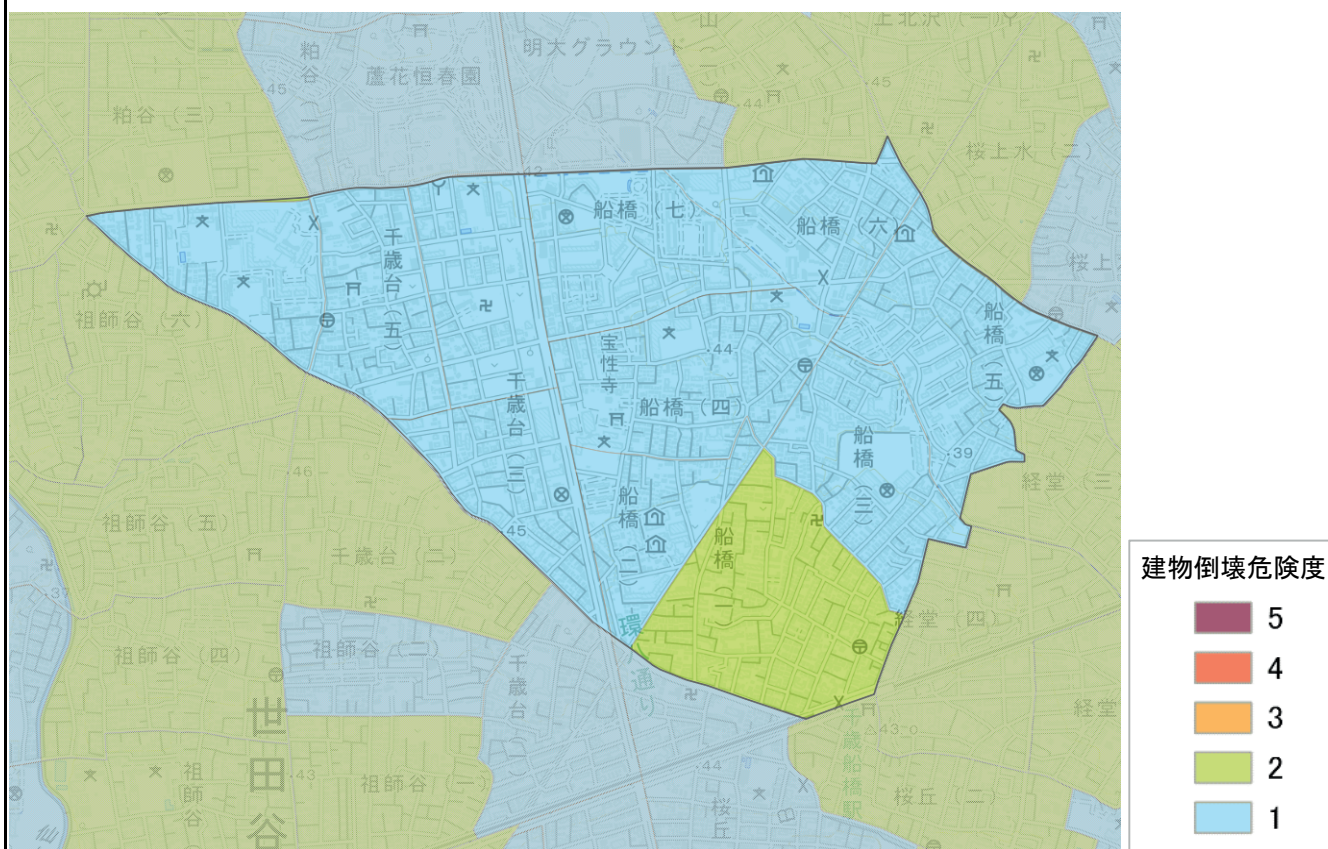
(2)社会特性

産業

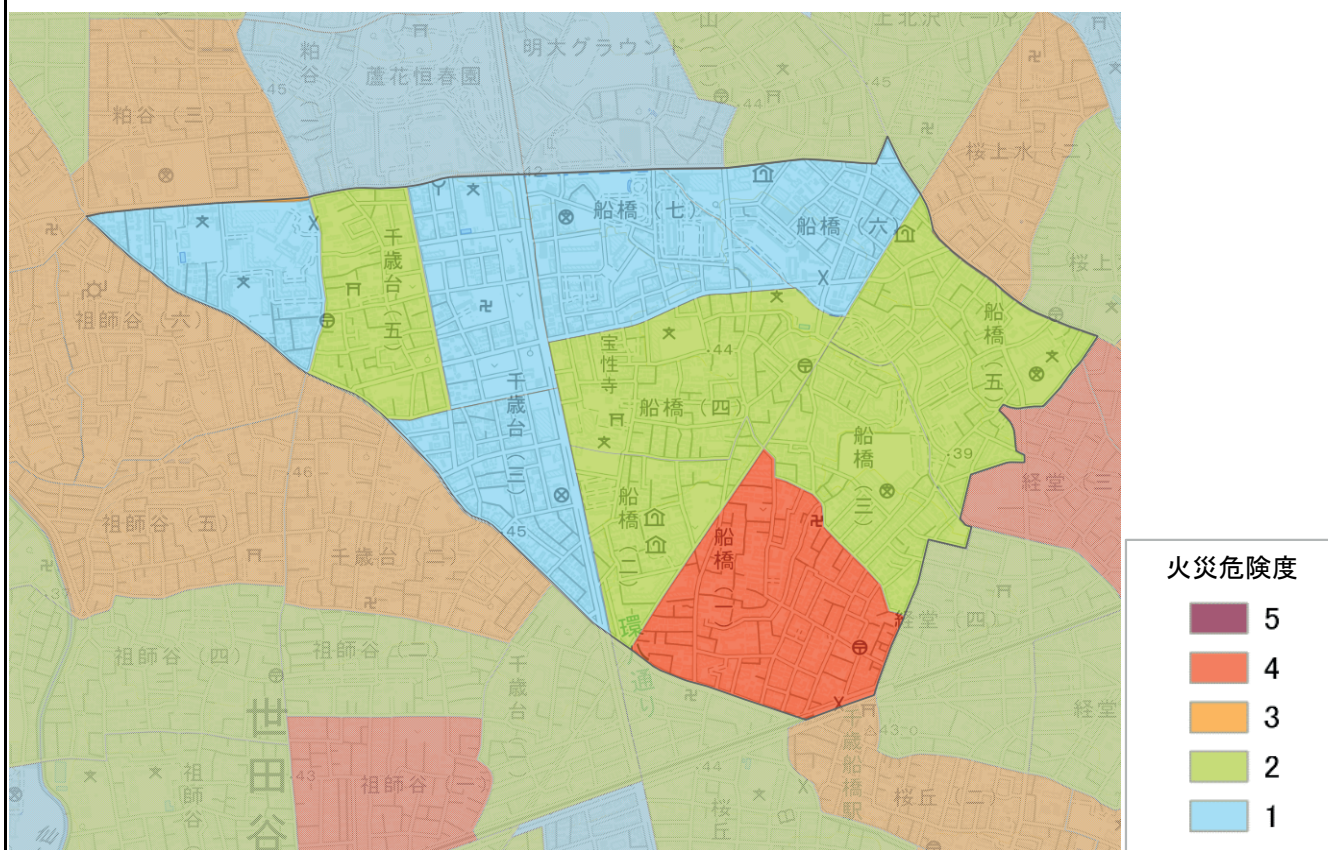


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



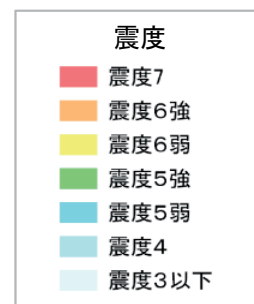
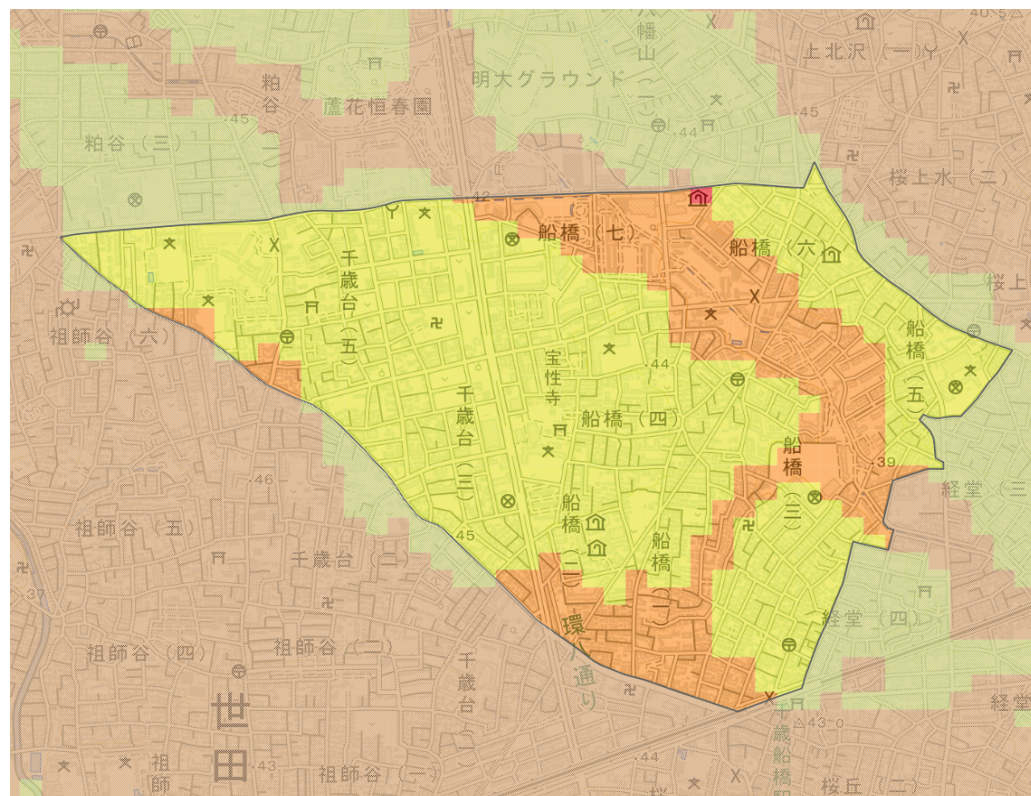
火災危険度



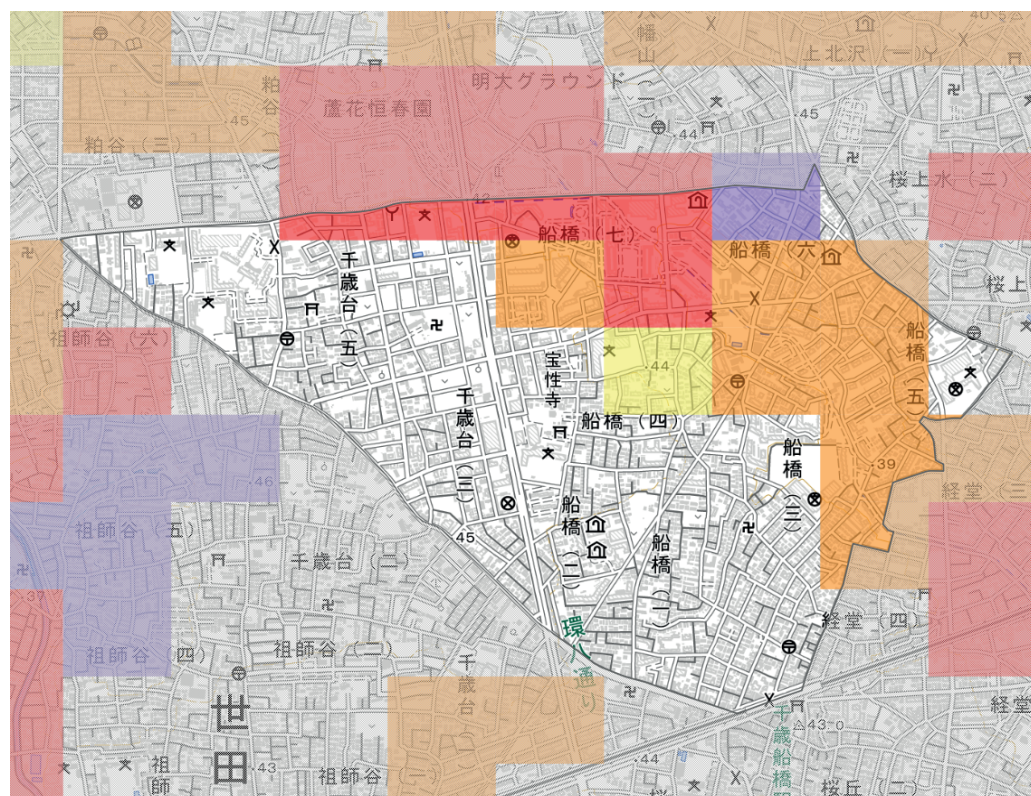
(4)被害想定

全壊棟数	87 棟	死者	19 人
半壊棟数	338 棟	負傷者	208 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	825 棟	うち重傷者	35 人

震度分布

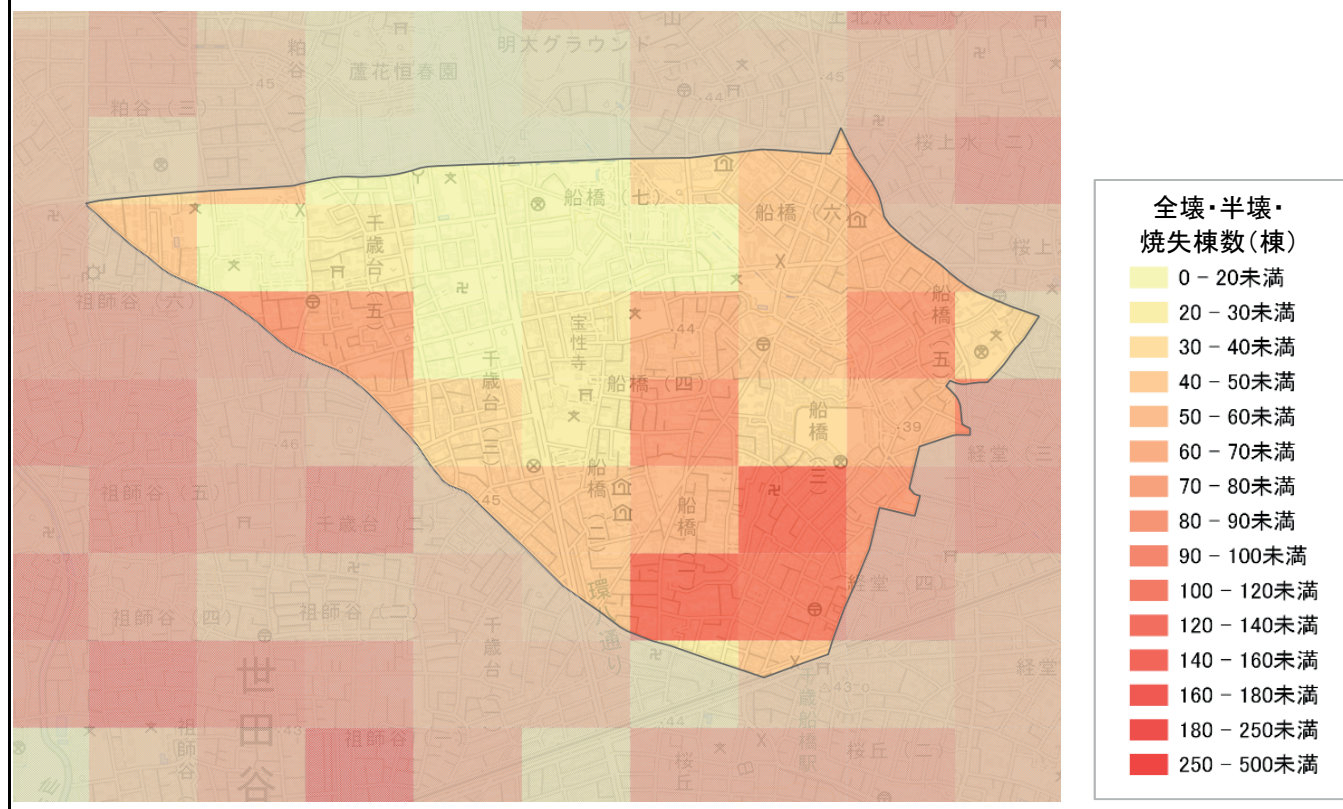


液状化分布



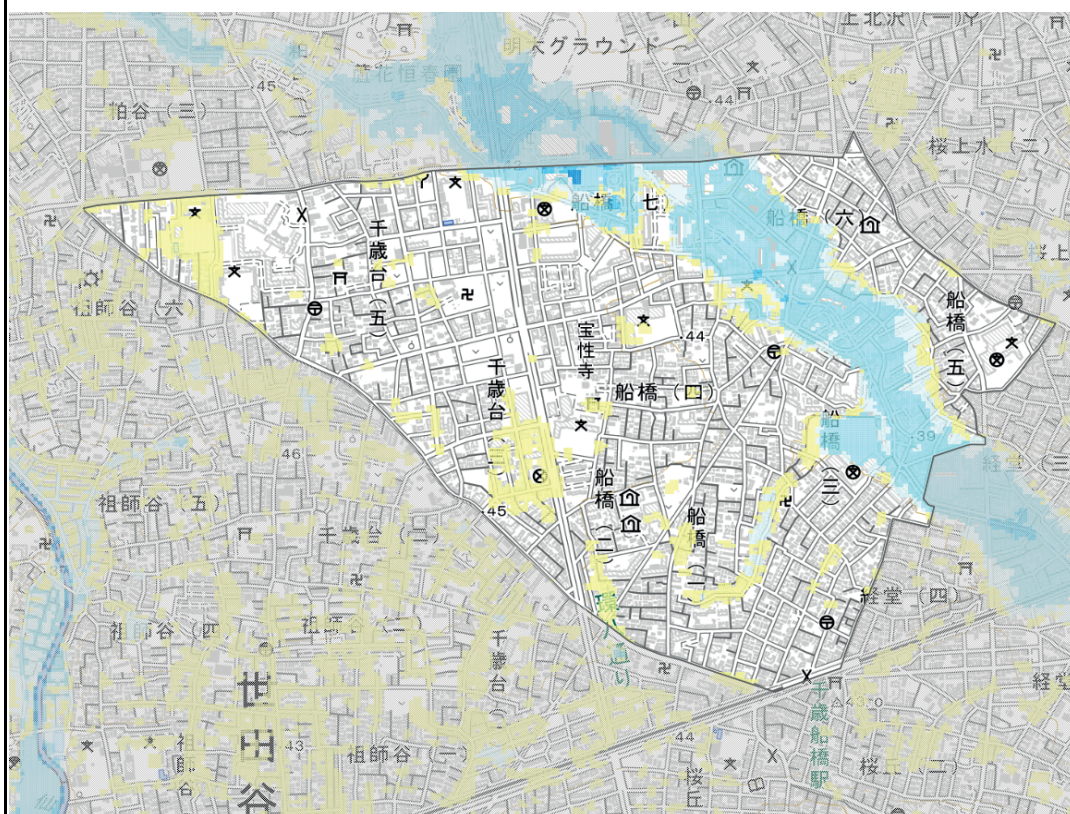
(4)被害想定

被害棟数分布

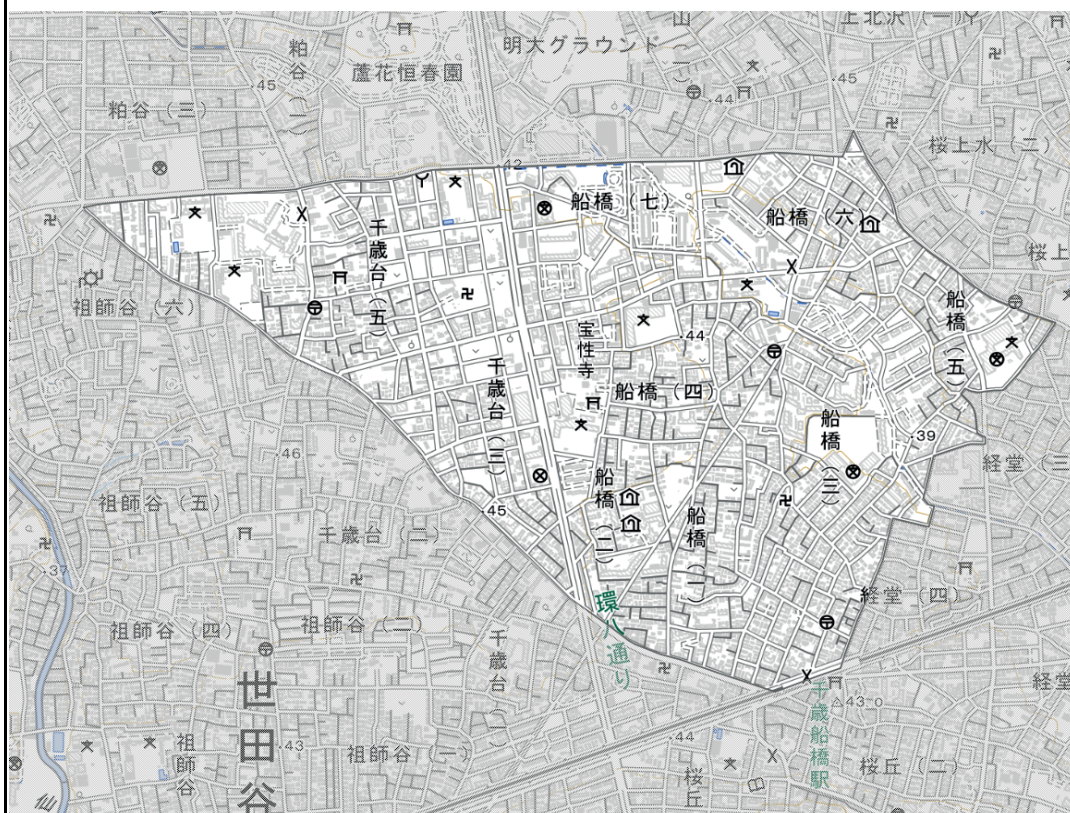


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



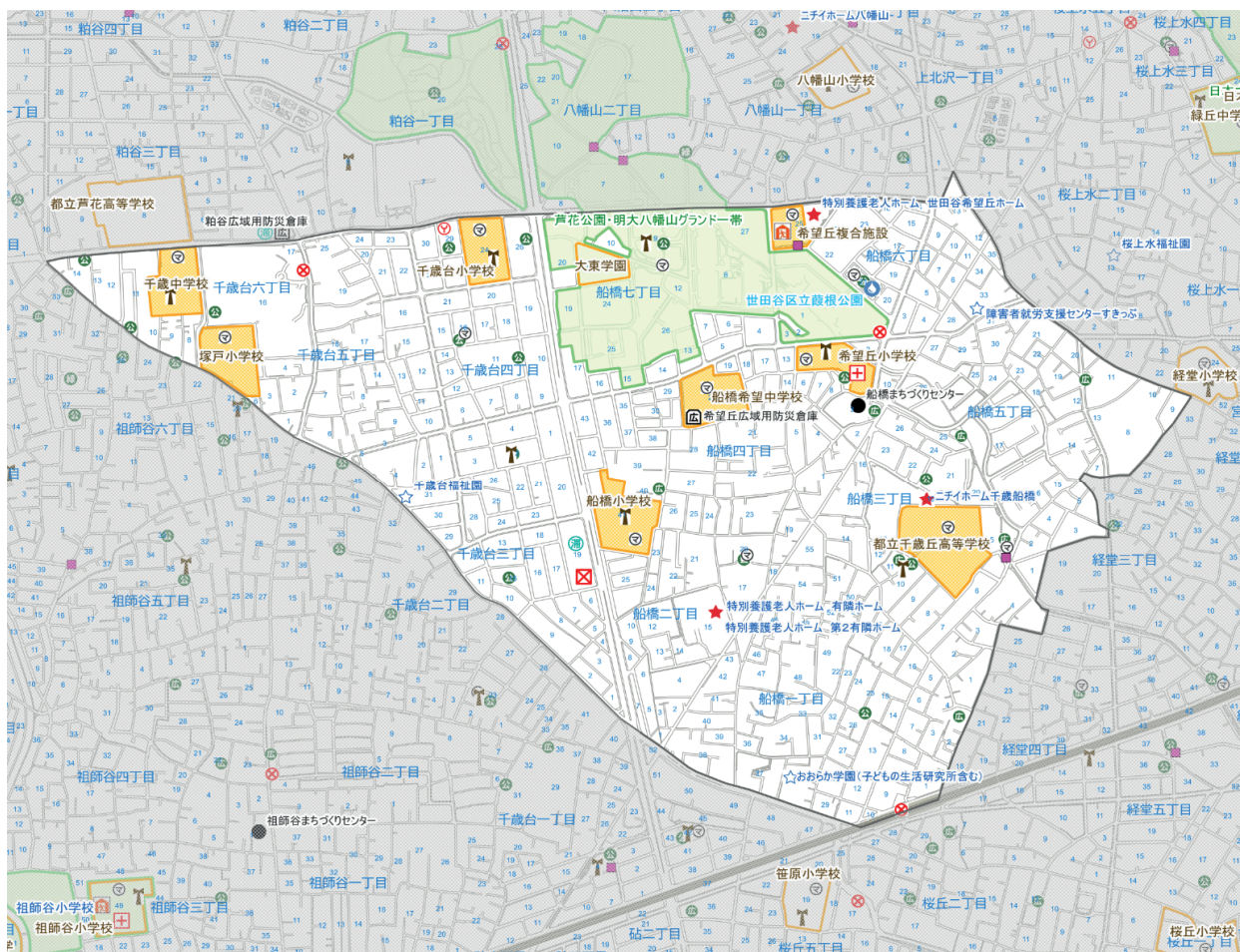
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	芦花公園・明大八幡山グランドー帯				
一時集合所	フレール西経堂団地広場 廻澤稲荷神社境内 希望丘記念公園 希望丘公園 希望丘中公園 希望丘南公園 希望丘北公園 西経堂児童遊園 西経堂第二児童遊園 千歳丘高校正門付近 船橋1丁目児童遊園 船橋4丁目ふれあいひろば 船橋希望中学校校庭 船橋小学校校庭 船橋神明神社境内周辺 船橋本村公園 船橋郵政社宅内広場 団地内広場 池田児童遊園 葭根公園				
指定避難所	希望丘小学校 希望丘複合施設 千歳台小学校 船橋希望中学校 船橋小学校 都立千歳丘高等学校				
予備避難所	大東学園				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム有隣ホーム 特別養護老人ホーム第2有隣ホーム ニチイホーム千歳船橋 特別養護老人ホーム世田谷希望丘ホーム				
福祉避難所(障害者)	障害者就労支援センターすきっぷ 千歳台福祉園 おおらか学園(子どもの生活研究所含む)				
水害時避難所(第1次)	希望丘複合施設(区民集会所)	野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所	希望丘小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	トヨタモビリティ(株) 成城店				
一時避難施設(車中避難)			帰宅困難者支援施設	0 ヶ所	
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	11 ヶ所	防災行政無線塔	7 ヶ所	緑地	0 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	世田谷区立葭根公園				
広域用防災倉庫	希望丘広域用防災倉庫				
土のうステーション	希望丘複合施設 西経堂第二児童遊園				
警察署・交番	成城警察署 千歳船橋駅前交番 千歳台交番 船橋交番				
消防署・出張所	千歳出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ セタがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊞ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ⦿ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⦿ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| ⦿ マンホールトイレ | ⬆ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | ⬆ 水害時避難所(第2次) |
| ⚠ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| ⚠ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| ⚠ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| ⚠ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| ⦿ 身近な広場 | ⊞ 避難所救護所 |
| ⦿ 公園 | ⊞ 東京都災害拠点病院 |
| ⦿ 緑地 | ⊞ 東京都災害拠点連携病院 |
| | ⊞ 緊急医療救護所 |
| | ⦿ 一時滞在施設 |
| | ⦿ 帰宅困難者支援施設 |
| | ⦿ ボランティアマッチングセンター |
| | ⦿ 輸送拠点等 |
| | ⦿ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版・内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(船橋地区)

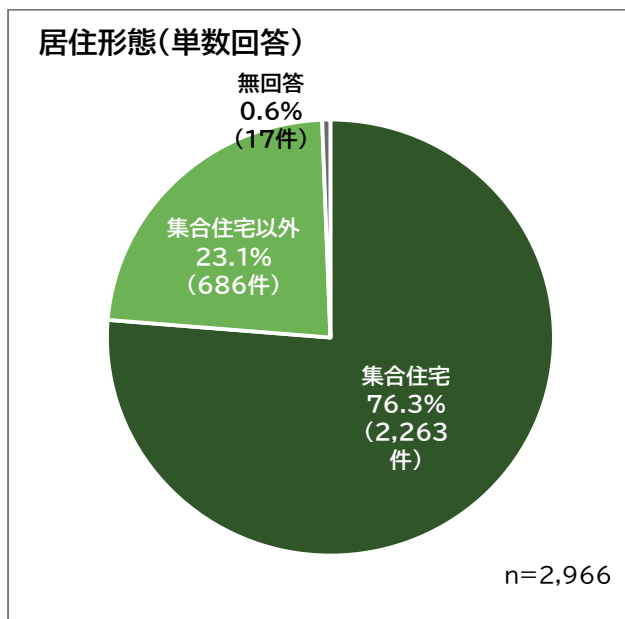
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

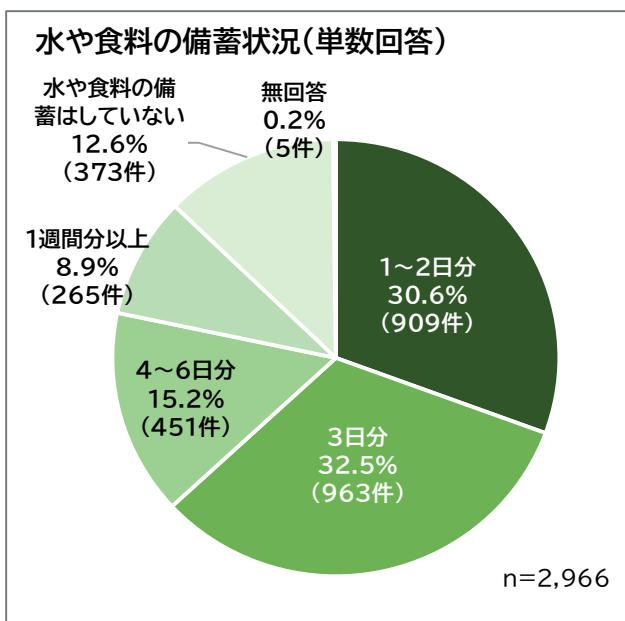
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



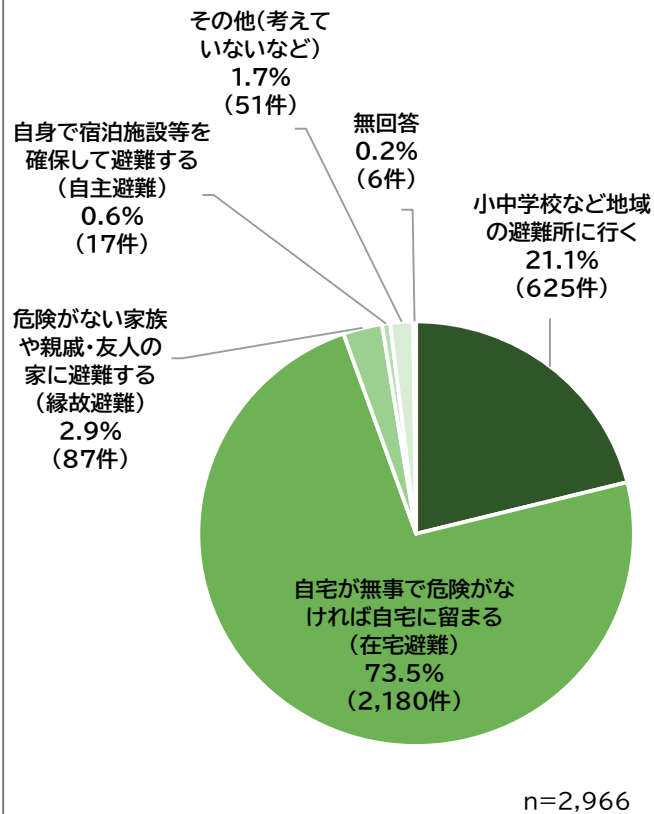
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



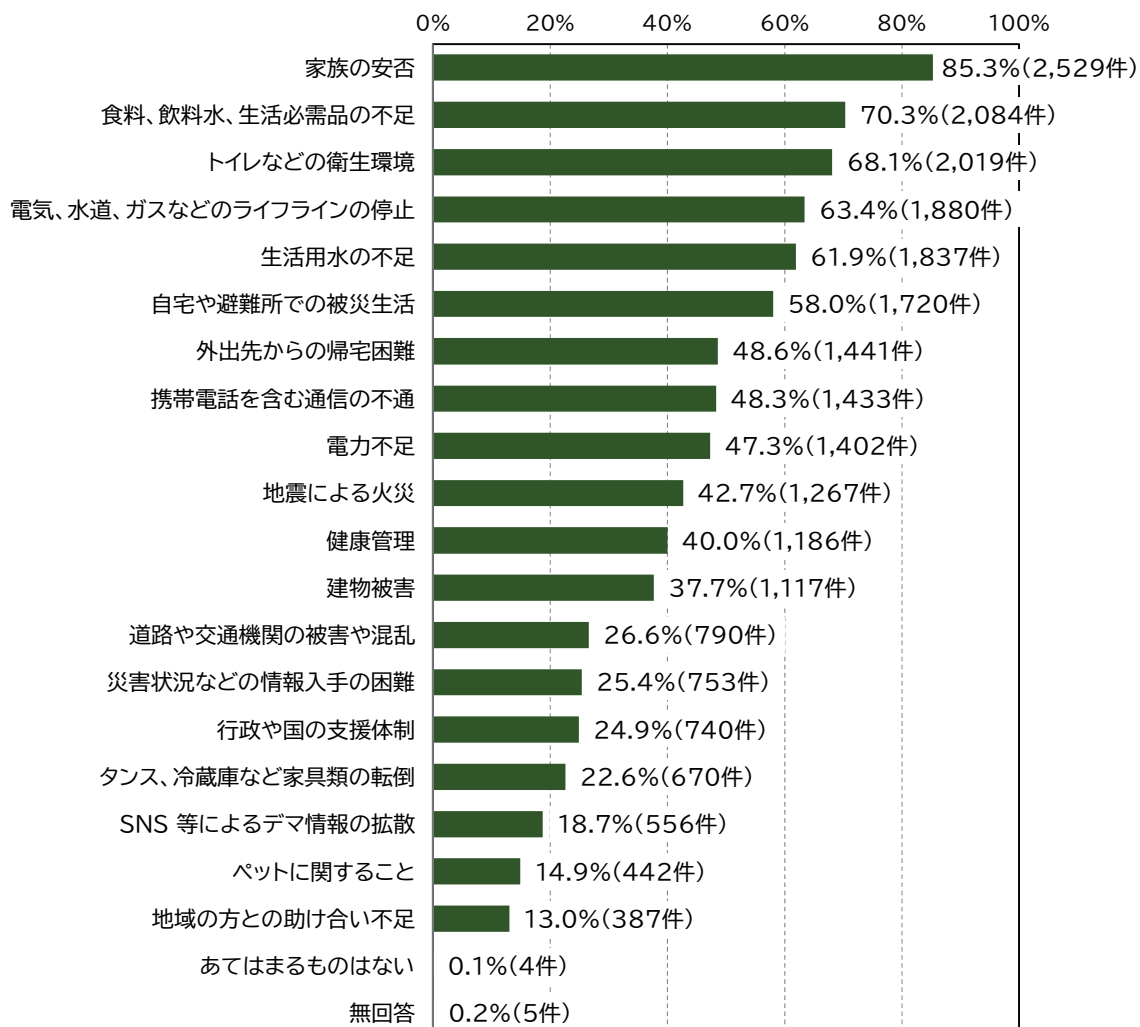
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,966

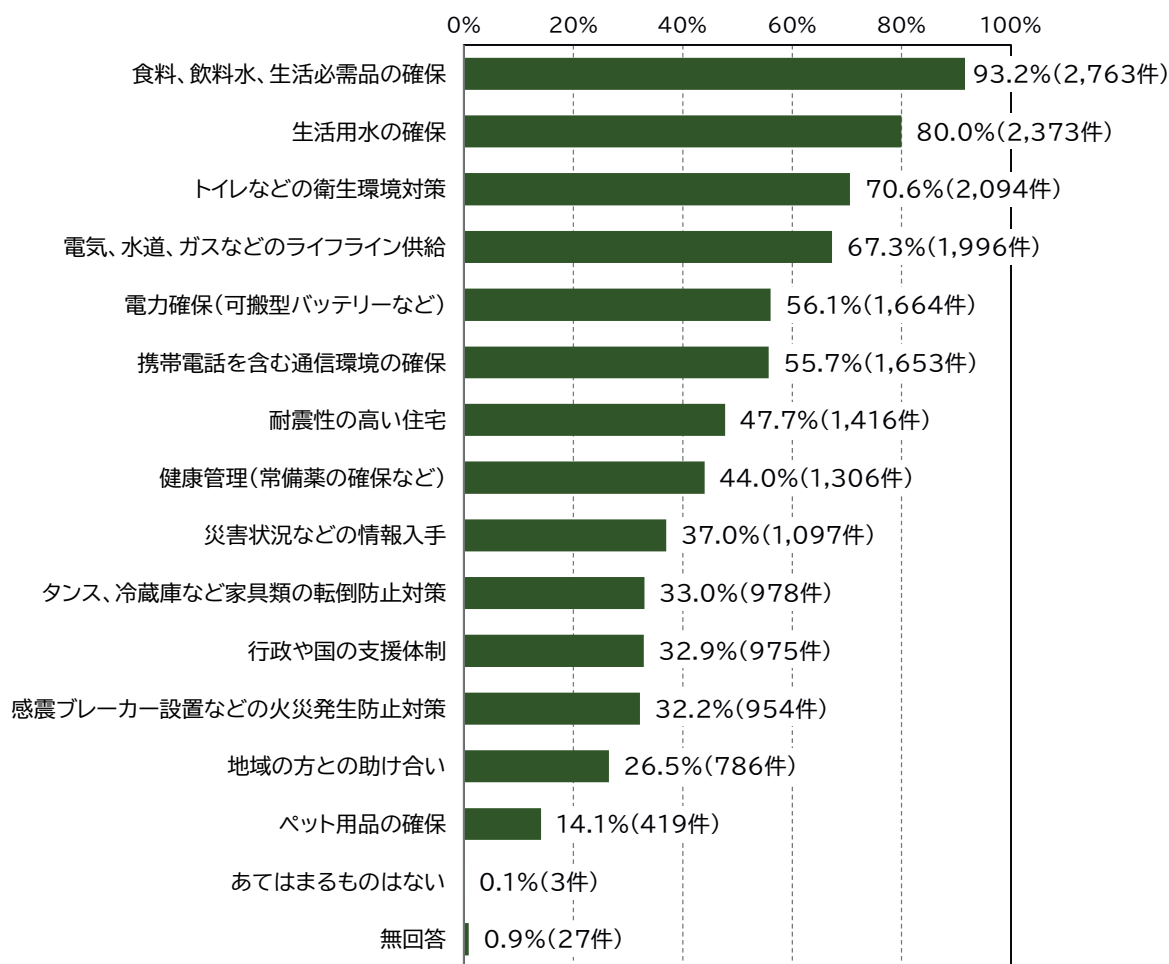
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,966

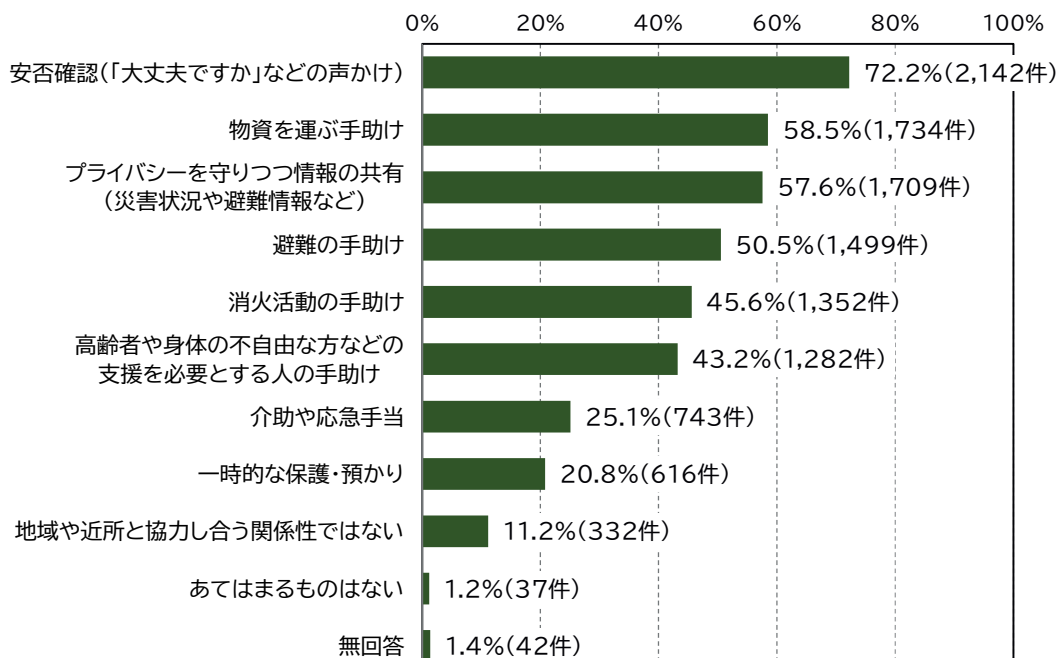
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

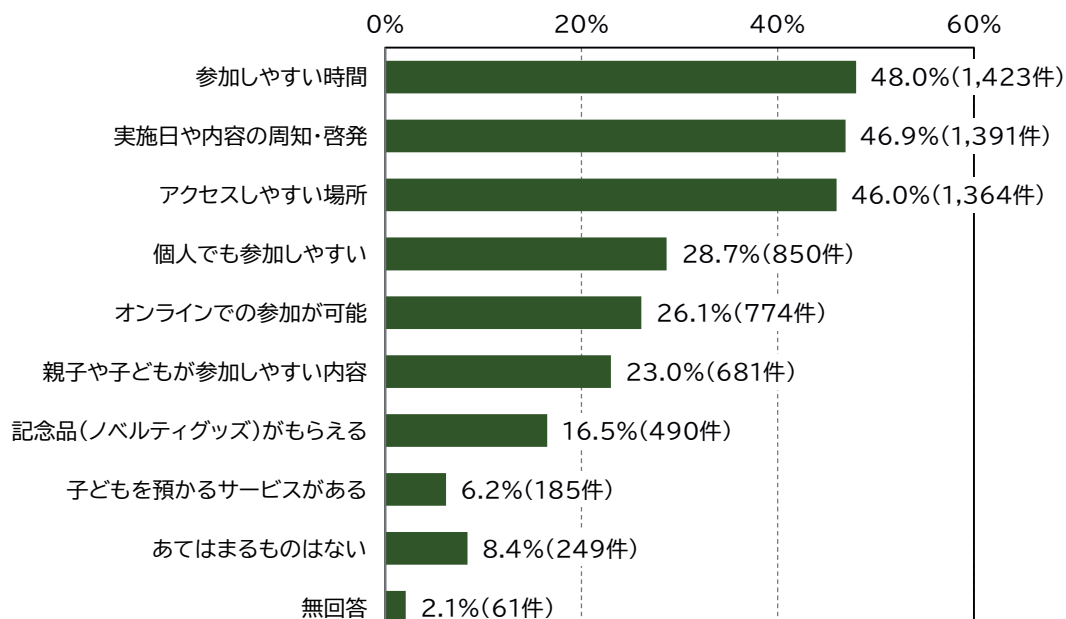


n=2,966

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



n=2,966

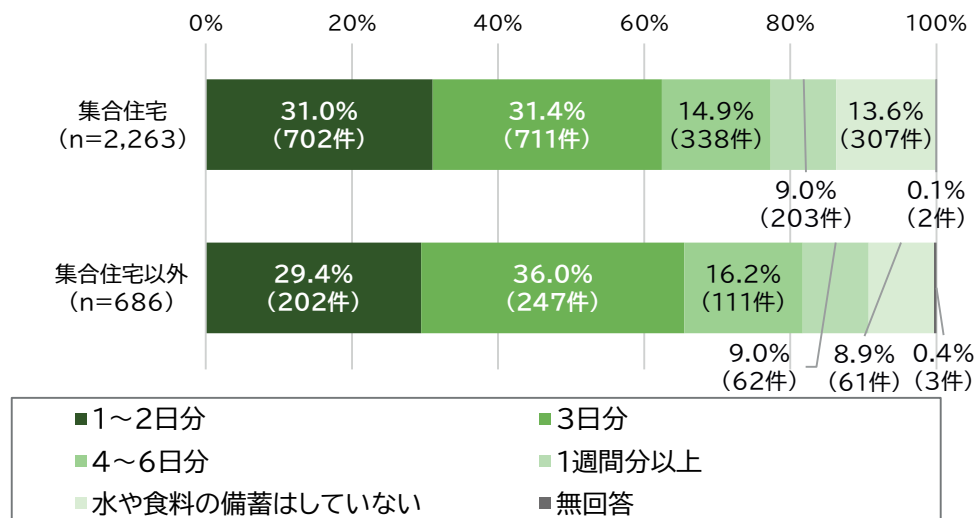
(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(1/4)

水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

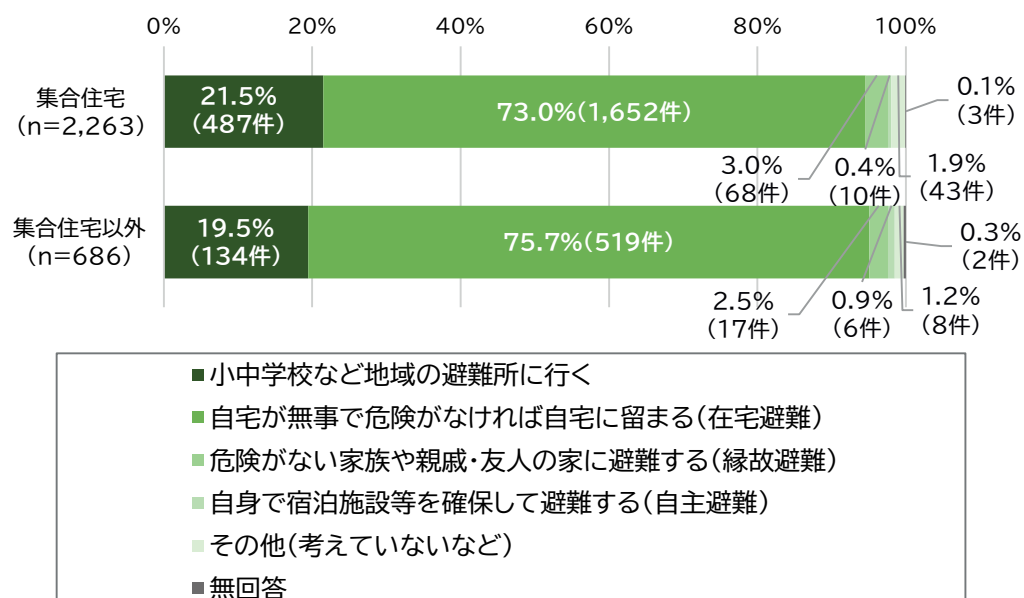
【居住形態別】水や食料の備蓄状況(単数回答)



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

【居住形態別】震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



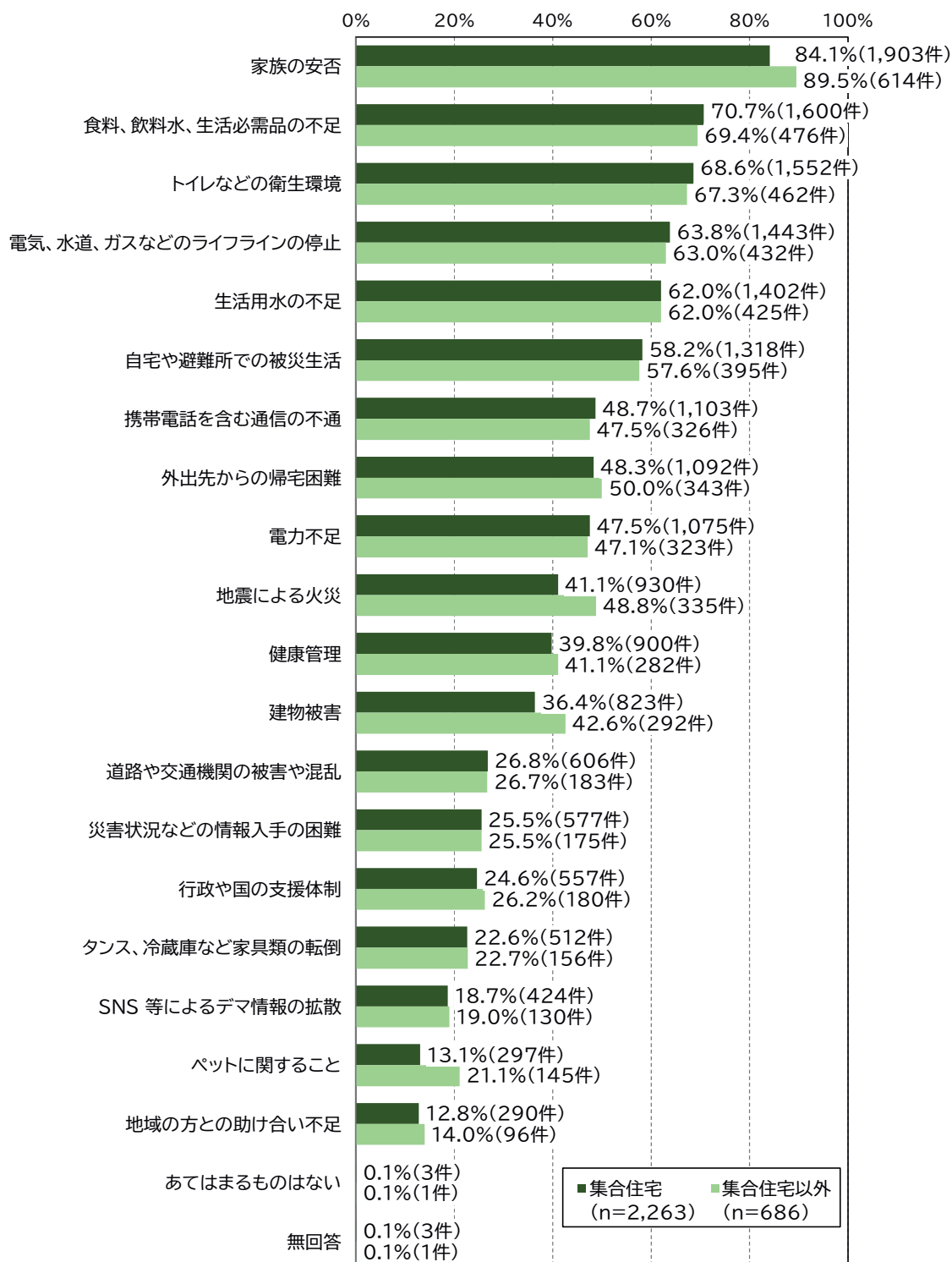
(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



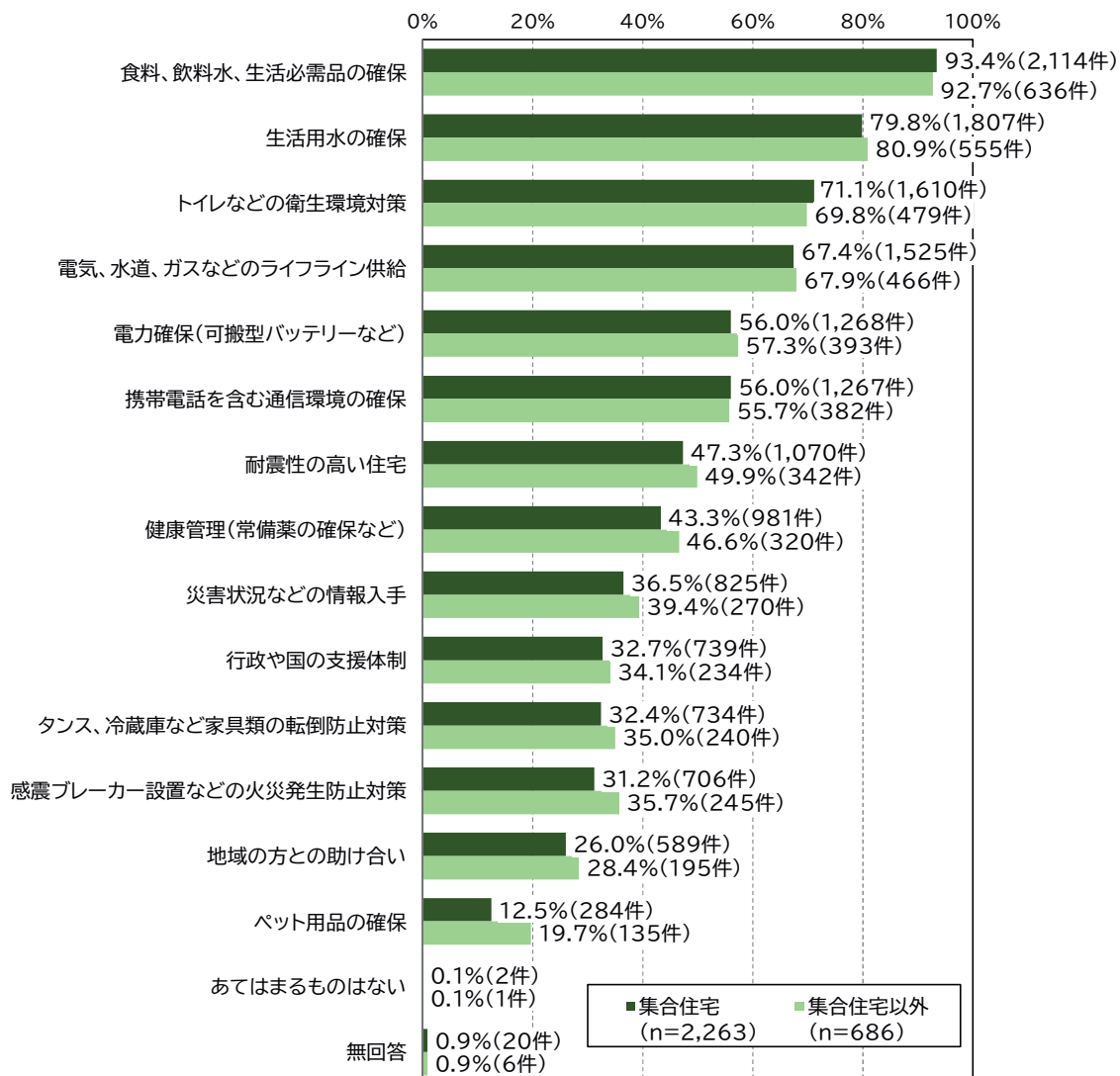
(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



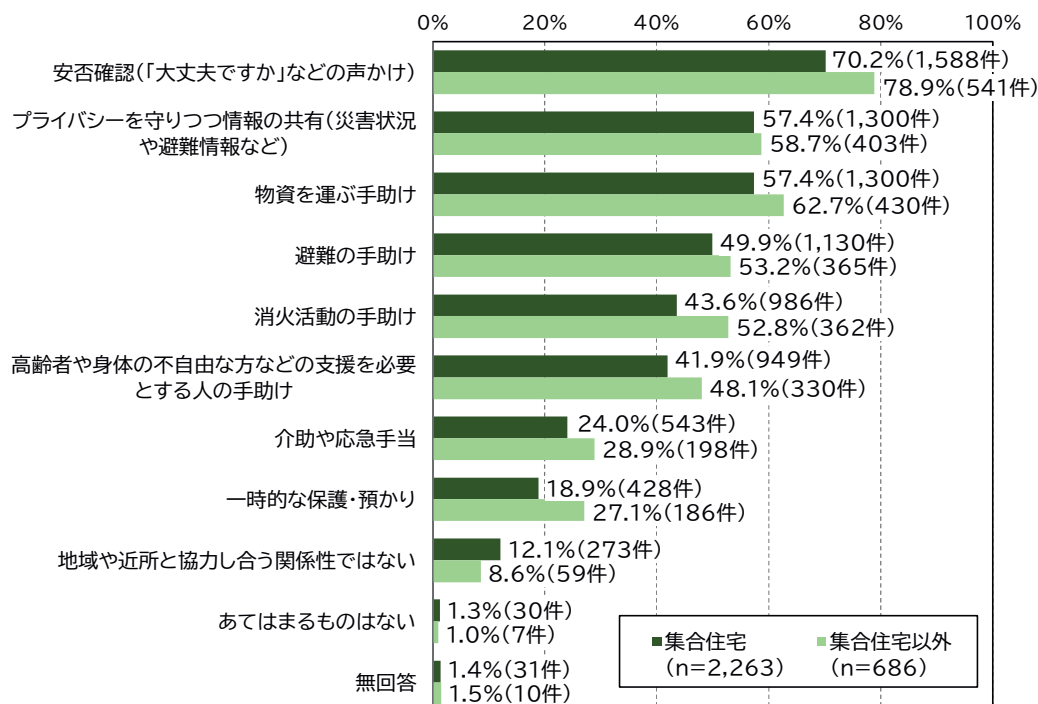
(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(4/4)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

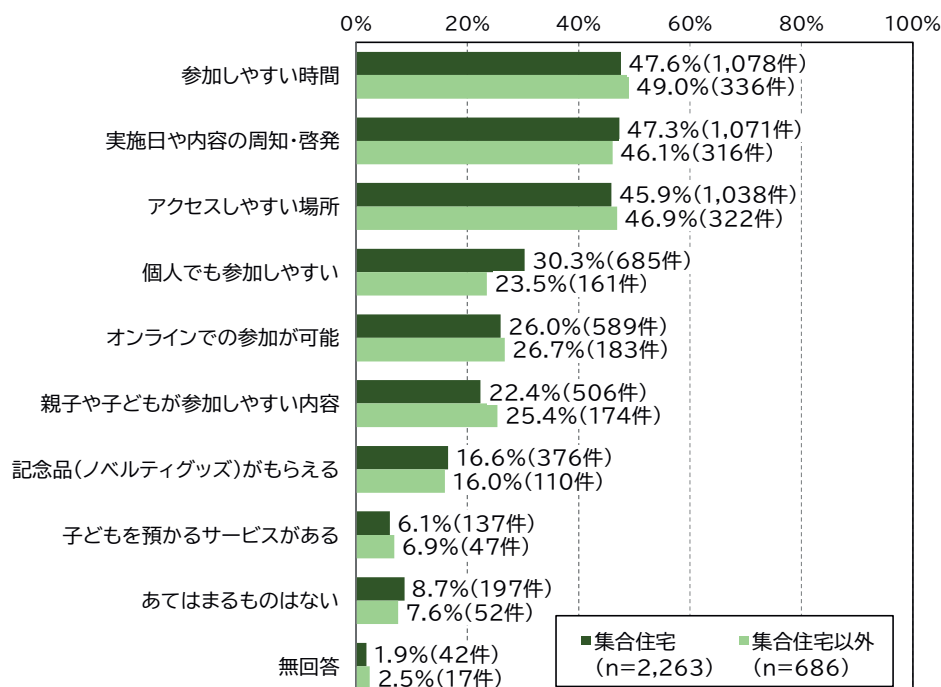
【居住形態別】災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

【居住形態別】防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	(実施回数 年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
船橋会	19		○			○		○		11	町内各所 (各計11ヶ所)
船橋葭根会	8	○		避難所運営委員会	1	○		○		2	葭根公園 船橋5丁目 ポンプ庫
フレール西経堂自治会	8	○		自治会役員会	3	○		○			
千歳台廻澤町会	8		○		1	○		○		1	廻沢稲荷神社 内防災倉庫
希望ヶ丘団地自治会	10	○		希望ヶ丘団地自治会 希望ヶ丘災害対策委員会	2 14	○		○			
船橋4丁目住宅自治会			○			○					
芦花公園スカイハイツ自治会		○		自治会防災部	3	○		○		1	防災倉庫
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会	5	○		理事会	6	○		○			
東京テラス防災自治会	20	○		定例役員会	12	○		○			

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
船橋会	1	防災倉庫(町内)					○		2	船橋小学校、都立千歳丘高校
船橋葭根会	1	船橋5丁目ポンプ庫	2	葭根公園防災倉庫			○		2	葭根公園
フレール西経堂自治会	1	D型ポンプ格納倉庫		各号棟各階すべて		防災倉庫	○		2	希望丘小学校敷地内集会所
千歳台廻澤町会	1	廻沢稲荷神社防災倉庫	5	廻沢稲荷神社祭器庫			○		1	千歳台小学校
希望ヶ丘団地自治会	1	D型ポンプ格納倉庫				防災倉庫	○		2	集会所、ピロティー
船橋4丁目住宅自治会			10	各号棟1階階段下				○		船橋希望中学校
芦花公園スカイハイツ自治会	1	防災倉庫	20	各階エレベータホール			○		1	敷地内
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会			5	各フロア			○		1	マンション内
東京テラス防災自治会			1070	全住戸(1036)、共用部	泡消火屋内消火栓連結送水管	駐車場11-14F 3-14F	○		1	マンション内

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ										
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報						
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓
船橋会			スタンドパイプ操作訓練 D型可搬ポンプ操作訓練	町内 神明神社	○				○	○	○	○	○	○	○
船橋葭根会			スタンドパイプ操作訓練 消火器操作 簡易トイレ組立	葭根公園			○		○	○	○	○			○
フレール西経堂自治会	1	第1集会所	D型可搬ポンプ操作訓練	敷地内			○		○	○	○		○		○
千歳台廻澤町会			D型可搬ポンプ操作訓練	千歳台小学校			○								
希望ヶ丘団地自治会					○				○		○		○		○
船橋4丁目住宅自治会								○							
芦花公園スカイハイツ自治会							○								
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会								○							
東京テラス防災自治会	1							○							

団体名	防災マップ	防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)			災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定		
	掲載情報	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
	その他												
船橋会	AED、スタンドパイプ、公衆電話、緊急ダイヤル、伝言ダイヤル説明	3			○			○					○
船橋葭根会		3		1				○					○
フレール西経堂自治会	公衆電話、AED	3			○			○			○		
千歳台廻澤町会			○		○			○					○
希望ヶ丘団地自治会								○			○		
船橋4丁目住宅自治会			○		○			○			○		
芦花公園スカイハイツ自治会		2						○					○
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会			○		○			○					○
東京テラス防災自治会		2	○						祖師谷千歳台自治会・避難所開設時の連携 (内容協議中)			○	

団体名	避難行動 要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)					救出救助に係 る資機材の配 備		
	日頃からの 見守り活動	避難行動 要支援者体験	その他	特に実施 していない	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー
船橋会				○							○			○	
船橋葭根会						○				○				○	
フレール西経堂自治会	○				○	○				○				○	1
千歳台廻澤町会				○							○			○	
希望ヶ丘団地自治会				○			一時集合 所の運営 体制作り と安否確 認隊他の 募集中			○				○	2
船橋4丁目住宅自治会				○							○		○		
芦花公園スカイハイツ自治会	○			○						○				○	
コスモ千歳台エクセラ管理 組合防火管理協議会				○							○			○	
東京テラス防災自治会	○				○	○		○				東京テラス地震発生時の活動指針		○	

団体名	救出救助に係る資機材の配備														その他	保管場所
	はし	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ			
船橋会			1	1										カセットコンロ、カセットボンベ、乾電池、ローソク	町会防災倉庫	
船橋葭根会		2		2	20	1	1	1	1			1	1		町会防災倉庫	
フレール西経堂自治会	1		2	2	30			13	1	2	1	1		ナタ1本、金テコ1本	防災倉庫	
千歳台廻澤町会		2	2	4	8	1	2	5	1	2		2	1		廻沢稲荷神社境内防災倉庫	
希望ヶ丘団地自治会		4	2	2	10		4	11	1	3	1	1	3	まさかり1丁、ヘルメット4個	防災倉庫	
船橋4丁目住宅自治会	1	5					1	5								
芦花公園スカイハイツ自治会			1			1	1				1				防災倉庫 担架 1階管理人室前	
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会		1		1			1	2		1	1	1			共用倉庫	
東京テラス防災自治会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		AED	防災倉庫	

団体名	食糧等の備蓄														
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
船橋会		○	350	210		300		50	4						
船橋葭根会		○										2	1		
フレール西経堂自治会		○	950			500			3			4	1		
千歳台廻澤町会	○			300								1	2		
希望ヶ丘団地自治会		○							4			1	2		10
船橋4丁目住宅自治会	○												1		
芦花公園スカイハイツ自治会		○				1900 L			2	1800 食	簡易 100 0個		1		
コスモ千歳台エクセラ管理 組合防火管理協議会		○				480			1				1		
東京テラス防災自治会	○					災害用 井戸設 備			5			○	○	○	○

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
船橋会	白米100㌔ ×300	町会防災倉庫	町会管轄避難所	1. 避難所運営訓練、防災ラリーを実施。 2. スタンドパイプ使用訓練を定期的に実施。
船橋葭根会		防災倉庫葭根公園		
フレール西経堂自治会	マンホール用 トイレ4台、簡 易トイレ1台	防災倉庫	団地内避難場 所	
千歳台廻澤町会		廻沢稲荷神 社防災倉庫	千歳台小学校 避難所訓練に て配布	12月下旬の歳末特別警戒にて地域の消防団員と共に、町会 役員、自治消防団員と地域全般を警戒して廻る。
希望ヶ丘団地自治会		第1集会所 物置 防災倉庫		1. 集合住宅(1800世)、高齢化は周辺地域の2倍以上を走 り、単独世帯が増加する団地では「一時集会所」の従来の概 念は崩れている。逆にアウトリーチ化が必要になるので、「一 時集会所」としての運営体制を検討している安否確認隊を重 視して、人員を募っている。倉庫の資機材のチェックをし、在 庫資機材の意識共有化を計ろうとしている。課題が多いが月 1回以上の災害対策7人会議の実行。 2. 「団地支えあいマップ」作りの第一歩として団地内の特定 の一棟をモデルケースとし、11月8日に聞き取り調査を行 う。首都直下地震に備え、減災を目指している。
船橋4丁目住宅自治会				
芦花公園スカイハイツ自治 会		各階エレ ベーター 脇倉庫		千歳台小学校の避難所運営訓練に参加
コスモ千歳台エクセラ管理 組合防火管理協議会		倉庫	各入居者	防災講習会を開催(年1回)
東京テラス防災自治会				千歳中学校避難所の運営参加

3. 船橋地区の課題と取り組み

(1)避難行動要支援者の安否確認

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・町会会員には安否確認カードを配布し、年2回の訓練を行い、少なくとも町会会員については安否の確認ができるように取り組んでいる。
- ・高齢者(75歳以上)本人、または同居家族の有無の情報は町会の敬老事業などを通じて副次的に得られているが、積極的な避難行動要支援者の洗い出しにまでは至っていない。
- ・住民全体に個別の安否確認の必要性の有無を申し出てもらい、安否確認希望者リストを作成した。
- ・住民の安否確認訓練と並行して、避難行動要支援者のうち安否確認を希望する家庭を個別に訪問して安否を確認する訓練を過去に3回実施した。
- ・管理組合の下部機関として、住民相互の「たすけあいシステム」を構築し、希望者は相互登録を実施して買い物支援など、日常でのふれあい活動を実施している(災害時の訓練などは協働参加)
- ・区と避難行動要支援者支援協定を締結し、これに基づき自治会内に「要支援者(制度創設時の区の呼称は「要援護者」)支援委員会」を設置した。各委員は担当委員として、それぞれ割り当てられた棟に住む要支援者の見守り活動を行い、月に一度情報交換会を開催した。
- ・年に2回程度、担当委員による要支援者を囲む集いを開き、避難行動に関する意見交換を行うなど、防災意識の醸成に努めた。
- ・大規模震災などの緊急時を想定した訓練では、担当委員が要支援者宅のドアをたたき安否確認を行うと共に、自宅外に避難を希望する者については避難所までの誘導を行った。

【学校、PTA、各団体】

- ・校内では、月に1度の避難訓練を実施している。
- ・避難訓練を行い、生徒が素早く校庭に避難できるように指導し、迅速的確に確認を行っている。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・ほとんどの要支援者に、自らの意思で自分自身を「要支援者として登録した」という自覚、記憶がないため、安否確認や各種活動にあまり協力的ではない。
- ・「支援委員会」の委員のなり手不足が生じており、要支援者の見守りや生活状況の把握、緊急時の安否確認が極めて困難になっている。
- ・避難行動要支援者の居住地の把握や現在の状況などを把握することが困難。
- ・避難行動要支援者の情報を各支援団体(自治会や民生委員、まちづくりセンターなど)と情報共有できる環境作りが課題。
- ・区との協定が未締結のため、避難行動要支援者の情報がない。
- ・管理組合と協力して住民情報を収集しているが、未提出者が多く、要支援者がいるかどうか定かではない。
- ・個人情報保護の観点とご本人同意の観点から、管理組合との情報共有ができない。

- ・情報を入手している家庭であっても、状況が刻々と変化するので、リアルタイム情報を追いきれない。
- ・コロナ禍以降、担当委員が大幅に減少したため人材確保に苦慮している。
- ・民生児童委員が行う当該活動との整合性/統一性がきわめて不明確である。

【学校、PTA、各団体】

- ・様々な状況を想定した避難訓練を実施し、児童の安否確認がスムーズにできるようにする。
- ・防災に関わらない職員も訓練に参加し、避難行動要支援者について意識してもらうようにする。
- ・PTA でもそれぞれのご家庭の状況を共有し、支援が必要な時に支援できる体制を作ることができれば、より安心できるのでは。
- ・交通機関が麻痺してしまった場合、区職員やあんしんすこやかセンターの職員、事業所職員など、地区に居住していない者は、支援のために出動することができない、という事態も想定される。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・避難行動を実施するための避難経路の確認と安否確認カード等の掲示の習慣化。
- ・副次的に得られている手元の高齢者の情報から避難行動要支援者の洗い出しなど、今後の取組を検討したい。
- ・区と協定を結び、避難行動要支援者の情報を入手する。
- ・区の情報に基づき、安否確認の希望の有無を調査し、希望者をリストアップする。
- ・リストアップ希望者を個別に安否確認する訓練を、年に2回実施する。
- ・安否確認は、平常時と緊急時で全く別の対応が必要であるとの区の指導を受けてきた。平常時については、ある程度定期的に要支援者の生活状況等を把握し、安否に関する情報を更新していく必要がある。
- ・緊急時に対しては、発災直後の要支援者の安否確認が急務となるが、効率的かつ確実な方法につき現在検討中。特に、安否確認において要支援者とそうでない居住者を差別化する合理的理由は存在しない。協定をどう解釈するか検討のうえ進めていく。

【学校、PTA、各団体】

- ・見落としのないように工夫改善は今後も続けていく。
- ・危機管理マニュアルにて教職員がそれぞれの役割を確認し、災害等が起きた場合は、「さしすせそ」(最悪を想定、慎重に、すみやかに、誠実に、組織的に)で行動するよう徹底する。
- ・地域との連携を密にしていける。

(2)地域連携について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・自治会が主催のイベント(おまつり、防災ラリー等)の実施。
- ・商店街主催イベントへの協力。
- ・船橋ふれあいまつりへの参加。

- ・避難所運営訓練への参加の呼びかけをPTAや地域団体、他自治会などに行う。
- ・学校への防災教育への協力を消防やまちづくりセンター、町会とともに行う。
- ・船橋地区町会自治会連合会の各自治会との関係づくり。
- ・他地区の自治会との関係づくり。
- ・居住者相互の連携については、集合住宅内のイベント等、「大家」である UR 都市機構との全居住者会合、あるいは防災訓練等の機会をとらえ、顔の見える関係づくりの構築を目指してきた。《フレール西経堂自治会》
- ・集合住宅と取り囲む地域の連携については、周辺町会、自治会のイベントや祭事等に参加し、連携の強化等に努めるとともに、小中学校や学校PTA、児童館などとの関係を大切にしてきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・学校協議会の開催。
- ・各町会・自治会のイベント等に参加し、情報交換や交流をすることで、地域とのつながりを維持、強化している。
- ・地域団体の活動への参加。
- ・安全ボランティア隊の設立、活動、ミーティング。
- ・「船橋希望学舎」内での連携、情報共有。
- ・学校公開、校庭開放、校庭でのお祭りや、防災教育も兼ねたおやじの会主催の「学校に泊ろう会」などの実施。
- ・学校の協議会の防災部会による、避難所運営訓練の実施。
- ・防災教育を地域と連携して行った。防災車、消火、AED、担架の体験、マンホールトイレの実演、アルファ米づくり、紙スリッパ、三角巾の作り方など。
- ・学校の避難所運営委員会への出席。ふれあいまつりなどのおまつりにも PTA として出席。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・地域での情報発信をどのようにすればいいか(特に単身者など地域とのかかわりの少ない人に向けて)。
- ・オートロックセキュリティのマンションである関係上、周辺地域との関わりが薄い。
- ・行政区域は船橋まちづくりセンター管轄、避難所は祖師谷まちづくりセンター管轄、学区域は千歳中学校・塚戸小学校とそれぞれ管轄が分かれていること。また、通りを挟んで北側は烏山地区となっていて、関係団体が多く、対応しきれていない部分がある。《東京テラス防災自治会》
- ・まちづくりセンターや近隣地域との協働がしやすい情報交換システムを構築してほしい。また行政の枠を超えた活動支援策を提案して頂きたい。
- ・集合住宅は、大規模災害発生時に周辺地域の活動から切り離された「離島」となる可能性も高いと思われる。したがって、集合住宅における地域連携は、(1)集合住宅敷地内の居住者相互の連携と、(2)集合住宅全体を一かたまりに捉え、それを取り囲む地域との連携、の両面からとらえていく必要がある。

【学校、PTA、各団体】

- ・勤務時間外の時間や休日の教職員の参加は難しく、管理職が参加し、教職員に情報提供している。
- ・勤務時間内で地域連携の機会を設けようと思うが、授業時間確保のため、時間設定が難しい。
- ・生徒が防災訓練などになかなか参加できない。
- ・地域の方と防災教育に参加することで、コミュニケーションをとることができる。
- ・防災教育で学校の施設を実際に利用することで、地域の方も場所や施設の使い方が分かるようになるのではないかな。
- ・学区内では、PTA とおやじの会が連携して良い環境ができていると思う。子どもが小学校を卒業した後も、在校中に PTA やおやじの会に携わった人が、今度は地域のメンバーとして、イベントを実施したりしている。
- ・イベント等の参加依頼がある団体が、特定の団体に限られている。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・地区内の学校との連携をより進めていきたい。
- ・地域のイベントについて、より浸透する発信ができないか検討する。
- ・船橋地区町会自治会連合会に加入したことから、加入各自治会との関係を深めると同時に、近隣の粕谷会、祖師谷千歳台自治会とも協力関係を構築する。《東京テラス防災自治会》
- ・大規模災害発生時において、「離島」状態となることを極力回避し災害関係の情報の流れに取り残されることの無いよう、情報収集の手段/人員を平時より確保していきたい。
- ・指定避難所である学校との発災時の連携の取り方をより実践的に考えていきたい。同時に、地域本部拠点隊との連携を確保したい。

【学校、PTA、各団体】

- ・複数地区の境界(船橋、経堂、松沢)に位置していることからどのように各地区と連携をとるか模索している。《恵泉女学園》
- ・これまでの取り組みの継続及び拡大。得られた情報は、授業や指導に取り入れ生かしていく。
- ・避難所運営委員会を柱に、学校としてできること、施設間での協力について共有していく。
- ・周知や募集方法を考え、生徒も防災行事に参加させていきたい。
- ・清掃やボランティアなどの活動に積極的に生徒を参加させていきたい。
- ・防災教育のほか、花壇整備、地区のおまつりの手伝いを今後も継続する。
- ・学校での PTA 主催のイベントは、地域の方の協力で成り立っている。お互いが互いに必要とする関係性を今まで以上に作っていく。
- ・LINE 等の SNS でコミュニケーションを円滑にするとともに、情報を発信し、多くの人に行事へ参加してもらえるようにしていきたい。
- ・分団主催の講習会等を実施し、地区住民に日赤の活動を PR し、地区住民と顔の見える関係を築き、分団への加入にもつなげていく。《日赤奉仕団船橋分団》

(3)初期消火について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・防災ラリーなどのスタンドパイプ消火や消火器による消火の訓練を実施。
- ・夏休みのラジオ体操終了後に、スタンドパイプ訓練を小学生の子供や保護者に見てもらい認知度を上げる。
- ・消火訓練での家庭用消火器の使い方訓練の実施。
- ・自力での消火の前に、119番通報と、周辺住民及び管理センターへの火災発生のお知らせなど、火災発生時の対応の広報。
- ・防災訓練や各戸への通達等を通じ、初期消火の必要性/重要性についての周知に努めてきた。
- ・D級ポンプによる放水訓練を実施してきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・年1回児童が消防署の初期消火訓練を受けている。
- ・おやじの会主催の「学校に泊まろう会」に参加した児童は消防署の初期消火訓練を受ける機会がある。
- ・職員の消火器使用訓練。
- ・2学年を対象とした防災教育や、年4回の避難訓練を実施している。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・初期消火における行動が地区の人に浸透していない。
- ・防災マップ作製後の、情報の更新をどうするか(誰がいつどのように行うか)。
- ・全戸に設置している家庭用消火器の使い方が周知されているか疑問。
- ・消火器等の設置場所や使用法についての認知度は未だに低いと言わざるを得ない。消火器使用は、1回の実施体験が大きな糧となるのだが、いかんせん防災訓練への参加率が低すぎる。

【学校、PTA、各団体】

- ・校内での防火防災訓練を年数回実施している。
- ・教職員研修や共通理解の機会を設けることが必要。
- ・職員の防火訓練の実施、消防署の方からの指導を受ける機会の確保が必要。
- ・校内で策定されている防災管理マニュアル及び特別非常配備マニュアルの校内周知が弱い。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・スタンドパイプが町内に設置されていることの周知と取り扱いを知っている人を増やしていく。
- ・防災訓練や各戸への通達等を通じ、初期消火の必要性/重要性についての周知に努める。
- ・防災ラリーなどのイベントを通じて、町内での消火栓マンホールの位置や防火水槽や消火器の場所などを把握している人が一人でも増えるようにする。

- ・引き続き発生時の対応を広報すると同時に、繰り返し訓練を実施する。
- ・防災訓練等を通じ、消火器の設置場所や使用法についての認知度の向上に努める。
- ・家庭用スプレー消火器設置を自治会防災活動に導入する計画を立てている。
- ・団地設計者/管理者を交えて、初期消火の方法、避難経路の確保等につき居住者説明会を実施する。
- ・感震ブレーカーの全戸設置を検討する。

【学校、PTA、各団体】

- ・消火器訓練を年間計画に位置づけ、確実に実施する。併せて防火扉の作動手順、やり方を全職員に共有する。
- ・今年度より生徒が防災士資格を取得する支援を行っている。防災士資格を取得した生徒には学校の防災教育及び防災対応に参画できるようにする。《都立千歳丘高校》
- ・災害、防災における危機管理研修を設け、防災対応を周知徹底する。

(4)情報共有について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・特小通信機(特定小電力無線機)を購入し、避難所内での情報の伝達経路を確保するようにする。
- ・町会役員のオンライン掲示板を作成し、平常時から情報の共有を図る。
- ・平時は掲示板、エレベーター内掲示、共有ラック(エントランス)、インターネット共有サイト、全戸配布などを通じて情報共有をしている。
- ・災害発生時については、マンション内の館内放送を使用しての避難訓練、拡声器を使用しての、中庭や外構からの放送訓練を実施している。
- ・防災訓練時には、集合住宅内の集会所を自治会防災本部と位置付け、居住者の安否確認を含む各種情報の収集、見える化の方策を検討してきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・地域や各団体の催しに参加した際に情報共有したり、学校運営委員会、学校関係者評価委員会で、地域の方や自治会の方と情報共有する場を設けたりしている。
- ・有事の際は、管理職は学校に登庁し、待機する。地域の方との連携窓口となり、施設の開放に協力することになっている。
- ・保健の授業で防災を学び、災害用伝言ダイヤル、防災アプリなど利用している。
- ・災害が起きたときに自分はどのように行動し、誰にどのように連絡するか考えさせている。
- ・「BAND」(グループでのコミュニケーションアプリ)などのツールを使い情報共有をしている。学校からは「すぐる」による情報の共有がある。
- ・今年度より常任委員と事務局限定の分団公式アカウントを作成し、分団長が随時情報発信できるようにした。《日赤奉仕団船橋分団》
- ・総会の議事録を欠席者も含めて全分団員に配付するようにした。《日赤奉仕団船橋分団》

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・停電時でも情報の共有ができるような体制をいかに作り上げるか。
- ・町内会での複数の避難所内での情報の共有化をどうするか。
- ・現在管理組合で利用しているマンション内のネットツールがあるが、プッシュ通知ができないなど利用しにくさがある。《東京テラス防災自治会》
- ・平時は各棟掲示板(11箇所)に区の広報物や管理組合、防災自治会からの広報物を掲示しているが、文字が小さくて見にくいなどの課題がある。重要なものはエレベーター内に掲示しているが、エレベーターを利用しない人には見てもらえない。エントランスロビーにて配布物(広報物)を自由にもっていけるようにしているが、利用者が限られる。《東京テラス防災自治会》
- ・災害発生時は停電に備え、紙ベースでの掲示物で情報を発信する予定だが、高層階から降りてきて確認する必要がある、リアルタイムでの共有が難しい。《東京テラス防災自治会》
- ・昨年度より区の方針として、大規模災害時の避難場所につき、在宅避難が優先されるようになったが、これにより、集合住宅としてのフレール西経堂内に組織される自治会には、これまで以上に、「全棟全室」、「全在宅」避難状況を見据えての活動が期待されることとなったのではないかと思料している。しかしながら、それらに十分対応できるだけの、人材やノウハウが自治会に備わっているとは言い難い。《フレール西経堂自治会》

【学校、PTA、各団体】

- ・私立中高は、中高等学校間でのネットワークにより、他校の中高生であっても、災害時帰宅困難な時は受け入れることになっている。《恵泉女学園》
- ・発災時、メールや電話の通信手段がどの程度使用できるか分からない。
- ・災害時に生徒たちが、からかいや遊びのつもりでデマや噂を流さないよう、日頃から生徒指導を丁寧に行う必要がある。
- ・災害時にデマや噂が流れても正しい情報源か確認させるよう日頃から指導を行う。
- ・学校から配信される「すぐーる」などを活用する。
- ・保護者同士、家庭同士の情報交換となると、色々な方がいるので、難しい側面もあるのではないか。
- ・常任委員は主に毎月の会議で情報共有を行っているが、分団員には資料を分団員の伝手か郵送で配付するという手段しかない。全分団員で簡単に情報共有できる手段を検討しているが、高齢の分団員も多く、漏れなく扱える手段がない。発災時には迅速な情報共有が困難である。《日赤奉仕団船橋分団》
- ・分団内で分団員の個人情報などをどこまで共有してよいか判断が難しい。《日赤奉仕団船橋分団》

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・「いちのいち」を導入して、日頃から情報共有できるよう取り組む。
- ・防災ラリーなどのイベントを通して、町内での消火栓マンホールの位置や防火水槽や消火器の場所などを把握している人が一人でも増えるようにする。

- ・居住者はそれぞれの方法で情報収集を行うため、防災本部内ではそれらの情報が、かなり錯綜することも十分想定される。対応策を検討しておかねばならない。
- ・地域本部拠点隊としてのまちづくりセンターとの適宜適切な情報交換方法の確保について検討していく。

【学校、PTA、各団体】

- ・これまでの取り組みの拡大、推進。
- ・発信の仕方の工夫。
- ・遠方から通学している生徒もいるので、無理をして帰宅しないことや避難場所をどこにするか、家族で話し合いをすることをこれからも指導する。
- ・PTA をやりたくない、参加したくないという人も増えている中で、最小限でありながら効果的な情報共有の手段があればと考えている。今のやり方を継続していくのもよいと思う。
- ・分団主催の講習会等を実施し、地区住民に日赤の活動を PR し、地区住民と顔の見える関係を築き、分団への加入にもつなげていく。

(5)在宅避難について

※令和6年度船橋地区防災塾 で挙げた意見を基に作成。

「課題と意見」及び「今後の取り組みの方向性」についてのみ記載する。

■課題と意見

- ・そもそも、在宅避難とは何を指すか分からない人もいるのではないか。
- ・「避難行動」と「避難生活」を区別して考えることが重要。
- ・避難所の名称(指定避難所、広域避難場所、一時集合所等)が細かく分かれていて、理解していない人が多いような気がする。
- ・在宅避難と言われていても、実際多くの住民が避難所に行ってしまうのでは。こうした人たちへの、備蓄など在宅避難に関する自治会からの呼びかけは大事。
- ・行政との情報手段をどうするか、検討が必要。下水管やトイレが使えるかどうかの情報を知るためにも重要。
- ・在宅避難を考えるなら、多くの世帯が住む集合住宅の防災についてしっかり考える必要あり。
- ・子どもを通じての普及啓発は重要。小学校の場合、子どもが防災に関して調べものをする、親にも波及する。
- ・防災ゲームなど、子ども向けで楽しめるものを活用すると、子どもを通じてより理解が広まるのではないか。
- ・ご近所同士の連携を見据えた、日頃からの顔の見える関係づくりを進め、情報共有していくことが重要ではないか。
- ・震災が起きたら避難所へ向かう、というイメージを持つ人は依然多いと思われる。

■各団体の今後の取り組みや方向性

- ・在宅避難について、行政からの周知だけでなく、日頃からの顔の見える関係づくりを進め、その中で情報共有していくよう努める。
- ・個人でできること(ローリングストックや家の耐震チェックについて等)それぞれが防災に関する知識や情報を得て意識を高め、それを相互に発信できる機会を作っていく。

